

高江オスプレイパッド建設とごまかしの返還式典に抗議する決議（案）

オスプレイの墜落事故について、防衛省は墜落の事実すら認めず、本土マスコミもこれに追随した。沖縄米軍トップは「感謝されるべき」と述べ、怒りを持った。そればかりでない、政府・防衛省は、原因も何も明らかでない状況で、沖縄県や名護市の再三の要請を無視し、米軍の要請を一方的に受け入れる形で飛行再開を容認した。これほど沖縄を侮辱し、沖縄県民を不安と危険に陥れる行為はない。私たちはこれに強く抗議する。オスプレイは即刻飛行を止めるべきである。

高江及び安波のオスプレイパッド建設では、全国各地から派遣された警察機動隊が、建設現場へ通じる県道 70 号線を封鎖し、反対する住民や市民を暴力的に排除している。現場のリーダーらを不当に逮捕し、再逮捕を繰り返して長期に勾留するなど、弾圧を強めている。

高江地区を取り囲むように配置される 6 カ所のオスプレイパッド建設は、住民の生活を破壊する。すでにオスプレイが飛び交っているが、低周波を含む激しい騒音に苦しめられている。世界的に貴重な森を破壊し、ヤンバルクイナやノグチゲラなども追い詰められている。

北部訓練場の「返還」は「負担軽減」などではない。使用不可能な土地を返す代わりに、辺野古、高江、伊江島を結ぶトライアングル地帯での基地・訓練機能を集中、強化させるものである。

政府は、北部訓練場の返還式典を 12 月 22 日に名護市で開催する予定でいる。一体何を祝うというのか。オスプレイによる騒音と墜落の恐怖を、北部沖縄の貴重な自然の破壊行為を、沖縄へのさらなる基地の押し付けを祝えとでもいうのか。このようなごまかしの式典の開催は許すことはできない。

沖縄の民意を踏みにじって強行されたオスプレイの配備を撤回すること、オスプレイパッドを元の森に戻し、北部訓練場を全面返還することを求める。

2016 年 12 月 20 日

北部訓練場ごまかしの返還 12・20 官邸前抗議行動参加者一同